厚生労働科学研究費補助金
こころの健康科学研究事業

# 高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究

（Ｈ１８－こころ－一般－００８）

## 平成18年度　総括・分担研究報告書

主任研究者　中島　八十一

平成19（2007）年３月

# 目　　次

Ⅰ．総括研究報告書
全体統括　中島八十一、深津玲子、寺島　彰 ―――― 2

Ⅱ．分担研究報告
北海道ブロック　生駒一憲 ―――― 9
東北ブロック　森　悦朗 ―――― 18
関東甲信越ブロック　上小鶴正弘 ―――― 21
東京ブロック　中村憲司 ―――― 24
東海ブロック　山田和雄 ―――― 32
北陸ブロック　都築暢之 ―――― 36
近畿ブロック　鈴木恒彦 ―――― 44
四国ブロック　永廣信治 ―――― 53
中国ブロック　丸石正治 ―――― 55
九州・沖縄ブロック　蜂須賀研二 ―――― 58
千葉県　太田令子 ―――― 66
岐阜県　篠田　淳 ―――― 80
三重県　太田喜久夫 ―――― 87
岡山県　種村　純 ―――― 94

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表 ―――― 105

Ⅳ．研究成果の刊行物・別刷り ―――― 110

# Ⅰ．　総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金

こころの健康科学研究事業

平成１８年度　総括研究報告書

# 高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究
# （Ｈ１８－こころ－一般－００８）

主任研究者　中島八十一
国立身体障害者リハビリテーションセンター
学院長

研究協力者　深津玲子
国立身体障害者リハビリテーションセンター病院
医療相談開発部長

寺島　彰
浦和大学総合福祉学部
教授

平成 18 年（2007 年）3 月

研究要旨

全国を 10 箇所のブロックに区分し、各ブロックごとに拠点となる機関を定めた。各ブロックごとにブロック会議を開催することにより、各都道府県に地方支援拠点を設け、運用するための議論を積み上げる。ブロック会議には地方自治体の行政担当者の参画を得て、各都道府県ごとに支援ネットワークを構築に必要な社会資源等を調査し、運用への組み入れについて意見の集約に当たった。全体会議として地方拠点支援機関等全国連絡協議会を開催した。

## A．研究目的

高次脳機能障害支援モデル事業は平成 13 年度から 17 年度までの 5 か年で終了した。事業成果は高次脳機能障害診断基準、高次脳機能障害標準的訓練プログラム及び高次脳機能障害標準的社会復帰・生活・介護支援プログラムとしてまとめられた。

高次脳機能障害を持つ者への支援を一般事業として、これまでの 12 地域から拡大し全国で実施するために、平成 18 年度から、障害者自立支援法に基く地域生活支援事業の一環として高次脳機能障害支援普及事業が開始された。本事業では各都道府県に高次脳機能障害者への支援拠点機関を置き、支援コーディネーターを配置することにより、専門的な相談支援、関係機関との地域支援ネットワークの充実、人材育成のための研修等を行い、高次脳機能障害者に対して適切な支援が提供される体制を整備する。

このため、国立身体障害者リハビリテーションセンター（以下国リハ）は　全国高次脳機能障害支援普及拠点センターとなり、地方の支援拠点機関との連携を図ることにより、これまでの成果を全国へ普及定着させるため、連絡協議会の開催、研修事業を含む普及啓発活動を行うとともに、各種プログラムについての事例の積み上げによる検証を行い、さらに有効性のあるものにする。本研究の主任研究者と分担研究者はこの施策実行上必要な事項の企画、とりまとめに参画する。

B．研究方法

全国を 10 箇所のブロックに区分し、各ブロックごとに拠点となる機関を定める。各ブロックごとにブロック会議を開催することにより、各都道府県に地方支援拠点を設け、運用するための議論を積み上げる。ブロック会議には地方自治体の行政担当者の参画を得て、各都道府県ごとに支援ネットワークを構築に必要な社会資源等を調査し、運用への組み入れについて意見を集約する。全体会議として地方拠点支援機関等全国連絡協議会を開催する。

個人データを調査する際には下記の倫理面での配慮をなす。

（倫理面への配慮）

調査研究は所属する施設の倫理委員会の承認を経て実施する。調査対象者及び保護者・関係者から、口頭ならびに文書にてインフォームドコンセントを徹底し、調査対象者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。調査対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮した。

C．研究結果

ア　全国高次脳機能障害支援拠点センターである国リハは、北海道、東北、関東甲信越、東京、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州・沖縄の全国 10 地域のブロックを代表する支援拠点機関（別表）と連携して、すべての都道府県に支援拠点機関を設置し、支援コーディネーターを配置することを図り、高次脳機能障害支援普及事業地方拠点支援機関等全国連絡協議会を通じて、これを運用するための指導・助言に当たった。別表のように連絡協議会を開催した。

イ　高次脳機能障害支援を円滑かつ効果的に行なうために、都道府県ならびに支援拠点機関等の関係者、専門職員、学識経験者等で構成される連絡調整の場として地方拠点支援機関等全国連絡協議会を国リハが中心となって開催した。

ウ　国リハは平成18年度からの単独事業として、病院による機能回復訓練・地域支援活動や更生訓練所による生活訓練・支援及び研究所における情報収集・提供及びホームページの運用を行った。また、学院において都道府県・指定都市の行政及び関係職種の指導者に対する研修を実施した。

エ　厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業「高次脳機能障害者の障害状況と支援方法についての長期的追跡調査に関する研究（主任研究者：中島八十一）」、厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究（主任研究者：中島八十一）」、厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業「高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援における人材育成に関する研究（主任研究者：江藤文夫）」の 3 研究事業を高次脳機能障害支援普及事業と有機的に組み合わせることにより、支援プログラム等の検証に当たると共に、地方自治体における支援ネットワークの構築及び人材育成のための講習会並びに教材開発等に当たった。

D.　健康危険情報

特に無し

E. 研究発表

1. 論文発表

1. Kadota, H., Sekiguchi, H., Nakajima, Y., Kohno, Y., and Miyazaki, M. (2006) Brain activity related to the inhibition of the habitual responses: an fMRI study. Neuroscience Research, Supplement 1, vol. 55, S264

2. 中島八十一　これからの転倒・骨折予防-介護保険の動向を踏まえて-：転倒予防の知識と実践プログラム、武藤芳照編集　日本看護協会出版会　平成 18 年 7 月

3.　中島八十一　診断基準：高次脳機能障害支援コーディネートマニュアル　高次脳機能障害支援コーディネート研究会編集、中央法規　平成 18 年 6 月

4.　中島八十一、寺島彰　高次脳機能障害ハンドブック、医学書院、平成18年10月

5.中島八十一　身体と感覚、武藤芳照、衞藤隆、山本義春編集「新訂現代身体教育論」日本放送出版協会　2006年3月

6.　中島八十一：高次脳機能障害支援モデル事業臨床精神医学、35 (2) 121-130、2006

7. 中島八十一：高次脳機能障害支援モデル事業について。高次脳機能研究　26 (3) 263-273、2006

8.　今橋久美子、中島八十一：モデル事業で高次脳機能障害へのアプローチはこう変わる。臨床リハ　16 (1) 10-16、2007

9. 中島八十一：高次脳機能障害支援モデル事業について　高次脳機能研究　26(3)263-273、2006

10. 中島八十一：認知症と高次脳機能障害 Clinical Neuroscience 25 (2) 220-221, 2007

11. 中島八十一：高次脳機能障害への支援　地域リハビリテーション　2 (1) 21-24、2007

2. 学会発表

1.Kadota, H., Sekiguchi, H., Nakajima, Y., Kohno, Y., and Miyazaki, M. (2006) Brain activity related to the inhibition of the habitual responses: an fMRI study. 日本神経科学　第29回大会,　京都国際会館

2.中島八十一　「高次脳機能障害の理解と援助のあり方」、沖縄県平成18年度高次脳機能障害専門研修会　平成18年8月30日　那覇

3.　中島八十一　「モデル事業とその成果の普及について」、脳外傷友の会第6回全国大会 in おかやま　平成18年11月4日　倉敷

4.　中島八十一、森浩一　「fMRIで観察した盲ろう者2名の指点字触読時の脳活動」第30回日本高次脳機能障害学会　平成18年11月16日　福岡

5.　河野豊、中島八十一、関口浩文、門田宏、竹内成生「高次脳機能障害者のTMSによる短潜時誘発脳波」第36回日本臨床神経生理学会・学術大会　平成18年11月30日　横浜

6.　中島八十一　「高次脳機能障害の理解と支援」、世田谷区立総合福祉センター研修会、平成19年1月11日　東京

7.中島八十一　「障害者自立支援法における、病態像からみた高次脳機能障害者の位置づけとサービス利用について」、静岡県高次脳機能障害相談支援従事者専門研修会
平成19年2月8日　静岡

8. 中島八十一　「高次脳機能障害と支援普及事業」、富山県第一回高次脳機能障害講習会　平成19年2月24日　富山

9. 中島八十一　「高次脳機能障害支援のこれまでと今後」、高次脳機能障害を考える研修・交流会　平成19年3月17日　徳島

F. 知的財産権の出願・取得状況

なし

地方支援拠点機関等全国連絡協議会及び厚生労働科学研究費会議実施状況

| 会議名称 | 開催日 | 開催場所 | 出席委員数 | オブザーバー出席数 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回全国連絡協議会 | 平成18年10月17日 | 情報オアシス神田 | 63名 | 24名 |
| 第2回全国連絡協議会 | 平成19年3月9日 | 三田共用会議所講堂 | 予定 | 予定 |
| 第1回厚労科研費地域支援ネットワークの構築に関する研究全体会議 | 平成18年4月28日 | 合同庁舎5号館（厚生労働省）<br>共用第8会議室 | 16名 | |
| 第2回厚労科研費地域支援ネットワークの構築に関する研究全体会議 | 平成18年7月5日 | 国リハ学院大研修室 | 15名 | |
| 第3回厚労科研費地域支援ネットワークの構築に関する研究全体会議 | 平成18年10月17日 | 情報オアシス神田 | 14名 | |
| 第4回厚労科研費地域支援ネットワークの構築に関する研究全体会議 | 平成19年3月9日 | 三田共用会議所講堂 | 予定 | 予定 |
| 公開シンポジウム：高次脳機能障害支援の今後 | 平成19年3月9日 | 三田共用会議所講堂 | 予定 | 予定 |

高次脳機能障害者のご家族のための学習会（国リハ病院）

| | 開催日 | 開催場所 | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 第 1 回：「グループ討議による家族学習会」 | 平成 18 年 4 月 20 日 | 国リハ本館大会議室 | 10 名 |
| 第 2 回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」 | 平成 18 年 5 月 18 日 | 国リハ本館大会議室 | 11 名 |
| 第 3 回：「グループ討議による家族学習会」 | 平成 18 年 6 月 15 日 | 国リハ本館大会議室 | 9 名 |
| 第 4 回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」 | 平成 18 年 7 月 20 日 | 国リハ本館中会議室 | 14 名 |
| 第 5 回：「グループ討議による家族学習会」 | 平成 18 年 9 月 7 日 | 国リハ本館大会議室 | 10 名 |
| 第 6 回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」 | 平成 18 年 9 月 28 日 | 国リハ本館大会議室 | 13 名 |
| 第 7 回：「グループ討議による家族学習会」 | 平成 18 年 10 月 19 日 | 国リハ学院研修室 | 16 名 |
| 第 8 回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」 | 平成 18 年 11 月 16 日 | 国リハ本館大会議室 | 8 名 |
| 第 9 回：「グループ討議による家族学習会」 | 平成 18 年 12 月 14 日 | 国リハ本館大会議室 | 13 名 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第 10 回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」 | 平成 19 年 1 月 18 日 | 国リハ本館大会議室 | 15 名 |
| 第 11 回：「グループ討議による家族学習会」 | 平成 19 年 2 月 15 日 | 国リハ本館大会議室 | 10 名 |
| 第 12 回：「高次脳機能障害とは」「社会資源の活用について」 | 平成 19 年 3 月 15 日 | 国リハ本館大会議室 | 予定 |

高次脳機能障害支援モデル事業研修会（国リハ学院）

| | 対象者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|
| 第 1 回 | 行政職、専門職 | 平成 18 年 7 月 5 日～7 日 | 国リハ学院講堂 | 170 名 |

## 高次脳機能障害普及事業支援拠点機関一覧

| 都道府県名 | 支援拠点機関 | 住所 | 電話番号 |
|---|---|---|---|
| 北海道 | 北海道大学医学部附属病院 | 札幌市北区北14条西5丁目 | 011-716-1161 |
| 宮城県 | 宮城県リハビリテーション支援センター | 仙台市若林区南小泉4－3－1 | 022-285-4394 |
| 埼玉県 | 埼玉県総合リハビリテーションセンター | 上尾市西貝塚148-1 | 048-781-2222 |
| 千葉県 | 千葉県千葉リハビリテーションセンター | 千葉市緑区誉田町1-45-2 | 043-291-1831 |
| 東京都 | 東京都心身障害者福祉センター | 新宿区戸山3-17-2 | 03-3200-0077 |
| 神奈川県 | 神奈川県総合リハビリテーションセンター | 厚木市七沢516 | 046-249-2652 |
| 富山県 | 富山県高志リハビリテーション病院 | 富山市下飯野36 | 076-438-2233 |
| 愛知県 | 名古屋市総合リハビリテーションセンター | 名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1-2 | 052-835-3811 |
| 三重県 | 三重県身体障害者総合福祉センター | 津市一身田大古曽670-2 | 059-231-0155 |
| 滋賀県 | 身体障害者更生施設「滋賀県立むれやま荘」 | 草津市笠山八丁目5－130 | 077-565-0294 |
| 大阪府 | 大阪府立身体障害者福祉センター | 堺市旭ヶ丘中町4-3-1 | 072-244-8000 |
| 岡山県 | 川崎医科大学医学部附属病院 | 倉敷市松島577 | 086-462-1111 |
| | 社会福祉法人　旭川荘 | 岡山市平田407 | 086-245-7361 |
| 広島県 | 広島県立身体障害者リハビリテーションセンター | 東広島市西条町田口295-3 | 082-425-1455 |
| 山口県 | 山口県身体障害者福祉センター | 山口市八幡馬場36－1 | 083-925-2345 |
| 福岡県 | 福岡県身体障害者リハビリテーションセンター | 古賀市千鳥3－1－1 | 092-944-2011 |

# Ⅱ．　分担研究報告

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
（分担）研究年度終了報告書

# 高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究

分担研究者　生駒　一憲　北海道大学教授

研究要旨：高次脳機能障害に対して道内各地で種々の取り組みが進んでいるが，まだ十分とは言えず，関係機関相互の連絡も少ない．今後，地域ネットワークを充実させるためには実態把握，普及・啓発，相談窓口の明確化などが必要であると考えられた．

分担研究者氏名・所属機関名及び所属機関における職名
生駒　一憲　北海道大学教授

A．研究目的

北海道は平成13～17年度に行われた高次脳機能障害支援モデル事業に札幌市とともに参加した．18年度はその体制を発展的に引き継いで高次脳機能障害支援普及事業が行われた．この活動に自ら参加するとともに，道内の活動状況を調査し，望ましい地域支援ネットワークの構築方法を模索することが目的である．

B．研究方法

道委託事業である支援拠点機関，相談支援機関および道の保健所での活動状況を調査し，問題点を検討する．

（倫理面への配慮）

患者が特定されるようなデータは公表しない．

C．研究結果

支援拠点機関での相談件数は706件で患者本人からの相談が43％，次いで家族からの相談が35％であった．関係機関からの相談は15％しかなかった．

相談支援機関でも相談事業が行われたが，257件の相談に対し，関係機関からの相談は10％にすぎず，関係機関とのネットワーク形成が十分でないことを反映していると考えられた．

他の相談支援機関では道内脳外傷友の会会員を対象に調査が行われ，当事者と介助者がとらえている症状に隔たりがあることが明らかとなった．また，社会資源活用のための情報提供が進んできているが，まだ十分とはいえない状況であることが明らかとなった．

各地の保健所では相談や関係者との連絡調整会議が行われており，また，研修会の主催や後援なども行われた．医療機関を対象に，支援状況等のアンケート調査も一部地域で行われた．

以上より，地域のネットワークを充実させるためには，実態把握および一般住民と医療関係者向けの普及・啓発が今以上に必要であり，保健所等の相談窓口を明確化し，相談しやすい環境を作ることも重要であると考えられた．また，すべての高次脳機能障害者が適切な支援を受けるためには，退院時に高次脳機能障害の可能性についてよく説明し，相談窓口を指示するなど漏れ落ちがないような対策が必要であると考えられた．

D．健康危険情報

高次脳機能障害者に対して適切な支援を行わないと，国際生活機能分類で謳われている活動と参加が阻害され，よりよい健康状態を保つことができない．

E．研究発表

1．論文発表

1）高次脳機能の評価方法，臨床リハ16巻1号，17-23，2007.

2）高次脳機能障害支援普及事業－相談支援コーディネーターに期待する－，総合リハ，34巻6号，513，2006.

2．学会発表

1）Susceptibility Weighted Imaging (SWI)法によるびまん性軸索損傷の評価の検討（第13回日本リハビリテーション医学会北海道地方会，札幌，2006年4月）

2）当院における高次脳機能障害の概況について（第43回日本リハビリテーション医学会学術集会，東京，2006年6月）

F．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1．特許取得　なし

2．実用新案登録　なし

3．その他　なし

# 高次脳機能障害を
# 理解していただくために

北海道大学病院　リハビリテーション科

# 高次脳機能障害とは？

“高次脳機能”とは、簡単に言えば“動物には出来なくて、人間のみが可能な精神活動”のことをいいます。

交通事故や転落で頭をぶつけたり、脳卒中や脳腫瘍・脳炎などで脳損傷が起こり、これにより記憶障害、注意障害、要領よく計画する能力（遂行機能障害）、怒りやすい・ふさぎ込みがちになり社会生活が出来ない（社会的行動障害）などの症状を示すことを“高次脳機能障害”といいます。

では、高次脳機能障害について説明しましょう。

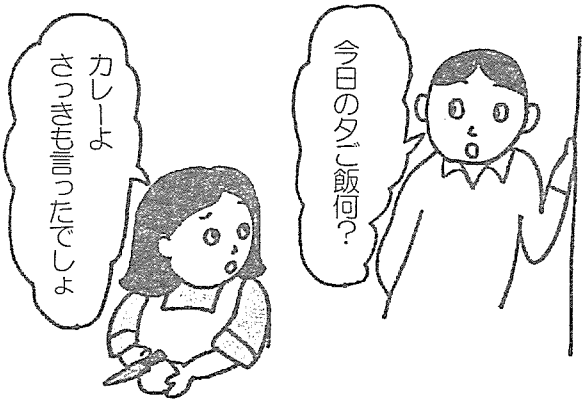
# 記憶障害

病気や事故によって脳が損傷されたことにより、記憶の機能が低下した状態です。

記憶障害は次の２種類に大別されます。

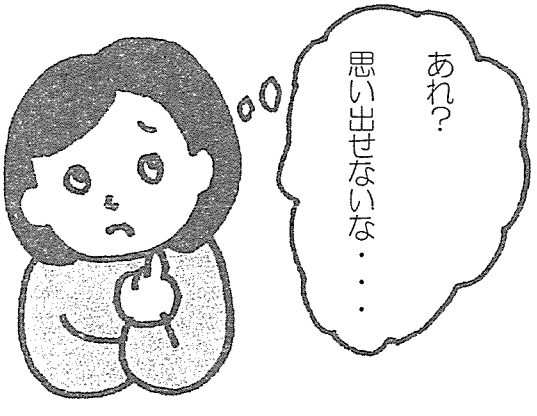
## ①　『覚える力』の低下

見たことや聞いたことを覚える力が落ちているため、今見たこと聞いたことを数分後にはもう忘れてしまいます。物をどこに置いたか分らなくなってしまったり、周りにいる人に同じことを何度も聞いてしまいます。




## ②　『思い出す力』の低下

物事を思い出す力が落ちているため、時間が経てば経つほど思い出すのが難しくなったり、何かきっかけがなければ思い出すことが難しくなります。過去のことについて思い出すことだけでなく、今後の予定や約束についても、思い出して行動に移すことが難しくなりま

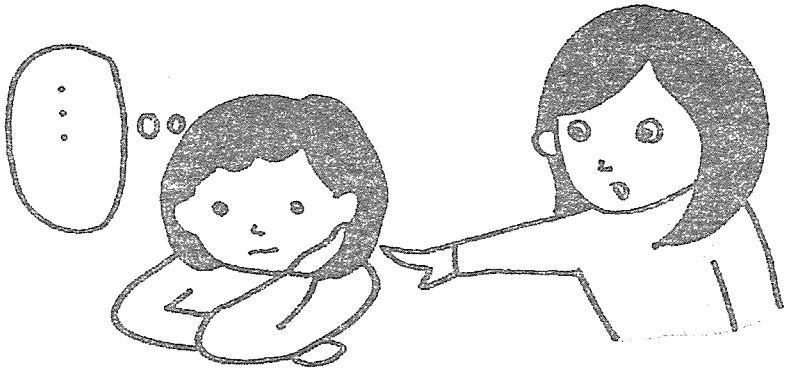


# 注意障害

「注意障害」は比較的多くの患者さんに見られる障害です。日常生活の中でいろいろな行動の基盤になっている機能です。

## 主な症状

① ボーッとした”感じになり，反応が乏しくなったり遅くなる。



② 周りの人や声に目が向き，１つのことに集中できない。

③ １つのことを始めると，周りに気がまわらない。

すいこう

# 遂行機能障害

“遂行機能障害”とは、ある目標や目的を達成するために、

①ゴールを定め、要領よく出来るように手順を考える。
②考えた手順に従って、実際に正しく実行する。

この二つが出来なくなる状態のことをいいます。

例えば、カレーライスをおうちで作る際の場合を見てみましょう。おおよそ、

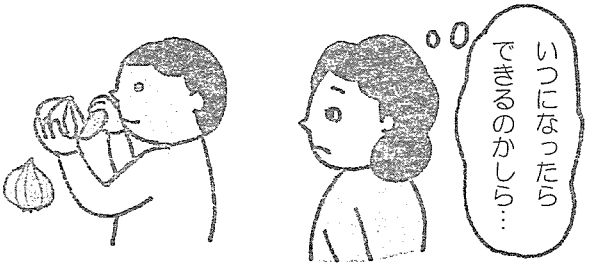
次のように考えます。
1）必要な材料は何かを考えます。
2）広告を見て，安く売っているお店はどこか調べて、何をどのくらい買うか買い物の計画を考えます。
3）お店で計画にしたがって適切な材料を必要なだけ買ってきます。
4）手順に従って調理します。

」
遂行機能障害のある人は・・・

買い物に行っても買い忘れたり、
関係のないものを買ってきてしまいます。

実際に調理を始めても、どこから手をつけていいかわからない、調理の順序を間違えたり、見当違いの大きさの鍋を使ってしまったりする。

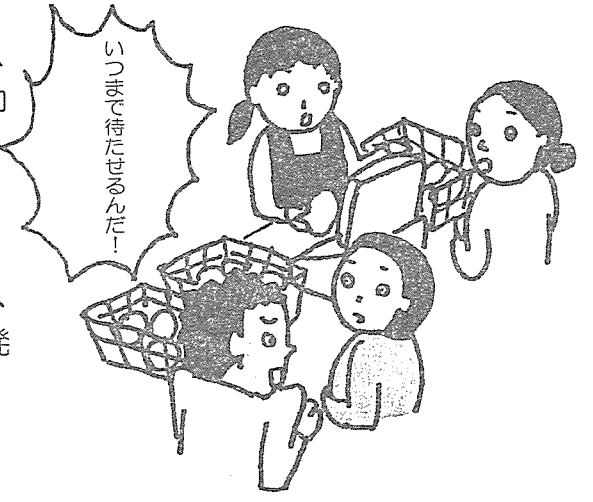
予定した時間までに調理できない。




という状態になります。

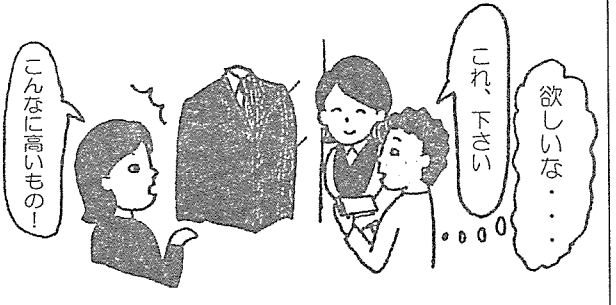
# 社会的行動障害（行動と情緒の障害）

多少のことでイライラしやすくなったり、突然興奮して大声をあげるなど感情のコントロールがうまくいかなくなります。



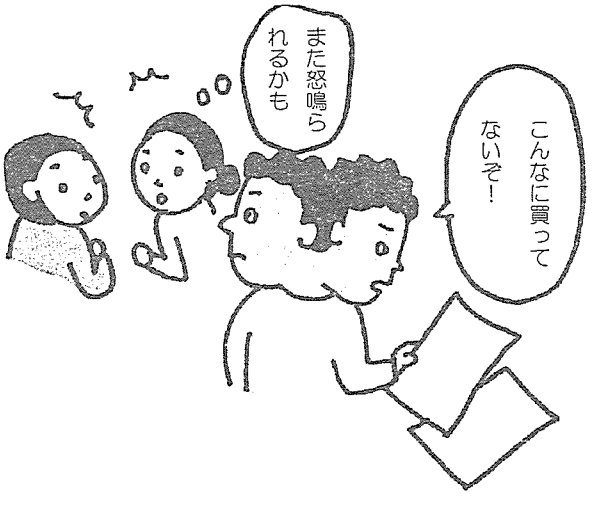

反対に自分からは動こうとしなかったり、周囲の状況に無関心になるなど意欲・自発性の低下を示すこともあります。

又、欲しいと思うと我慢できず無計画にお金を使うなど欲求が抑えられなくなることもあります。




他には抑うつ的になり引きこもってしまう、こだわりが強くなる、依存的になる、幼くなるなどの症状があります。

これらの症状によって周りの人とのコミュニケーションがうまくとれなくなりトラブルを起こしやすくなります。



# 周囲の方々へ

高次脳機能障害の方は以上のような症状がみられます。

本人と接する周囲の方々は、次の３つのことについてご協力をお願いします。

## ①　本人の抱えている障害を理解し、皆で支え合う

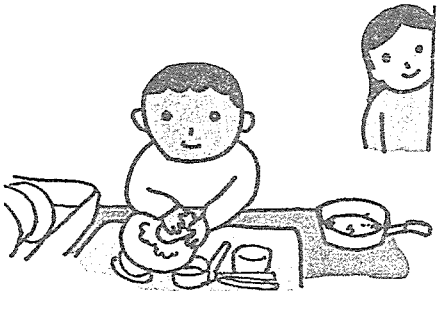
何が原因で症状が出ているのか、高次脳機能障害の適切な検査や診断を受けて、まずは御家族や周囲の方々全員がしっかりと把握することが必要です。周囲の方々の日々の適切な対応によって、本人の行動の仕方も変わってきます。また、全ての負担を誰か１人が担うのではなく、御家族や周囲の方々全員で理解を深めることで、支え合い、役割分担をして１人１人の負担を軽くすることにつながります。

## ②　本人の自尊心を尊重する

本人は、以前は当たり前のようにできていた事が上手くできず、日々の生活の中でストレスを常に感じている場合が多いようです。そこでさらに周囲の人々が病前の能力と現在の能力を比較して接してしまうと、本人の自尊心を深く傷つけてしまう可能性があります。病前の能力にこだわるのではなく、現在できる事できない事を理解し、新しい関係を築こうとする努力がお互いに必要です。

## ③　「手伝い過ぎ」に注意する

本人が何かをしようとして上手くいかず戸惑っているのを見ると、周りにいる人はついつい手伝ってしまいがちです。待っているより手伝った方が楽で効率も良いからですが、これでは本人に残された能力まで奪う結果となる可能性があります。時間をかければできることはたくさんあります。最後まで本人に行なってもらうことで、自分には何ができて何ができないかの認識も高まります。



# 高次脳機能障害でお困りの方へ

このパンフレットをお読みいただき、ご家族や友人・職場の方が高次脳機能障害ではないかと思ったらどうしたらいいでしょうか？

まず、高次脳機能障害かそれ以外の原因によるものか診断し、どのような症状があるか、どの程度の障害があるかをはっきりさせ、今後の支援方針を立てることが重要です。

北大病院リハビリテーション科は、厚生労働省の高次脳機能障害支援モデル事業の北海道地区支援拠点機関として、これまで道内の多数の高次脳機能障害者を診療して参りました。高次脳機能障害専門外来も開いています.

高次脳機能障害を疑ったら、まずは当科や道内の保健所にご相談ください。


問合せ先

発行：北海道大学病院リハビリテーション科

住所：〒060−8648　札幌市北区北 14 条西 5 丁目

電話：(011) 706−7010　(リハビリテーション科外来)

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
分担研究年度終了報告書

# 高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究

分担研究者　森　悦朗　　東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野教授

研究要旨
2回の東北ブロック会議を開催するなどの取り組みを行った。支援拠点機関の選定に苦慮している自治体が多く、事業の進展の妨げとなっているが、東北厚生年金病院に事務局を設置するなど、東北ブロック内の連携により円滑な推進を図った。

森　悦朗
東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野　教授

## A．研究目的

東北ブロックにおける高次脳機能障害者の地域支援ネットワークの構築に必要な医療機関や福祉施設、人的ネットワーク、障害者数等の実態調査を行い、円滑な支援ネットワークの運用を試みることを目的とした。

## B．研究方法

高次脳機能障害モデル事業に参加した宮城県の現状調査、ならびに、東北ブロックの各自治体において機関ネットワーク構築に必要な機関の実態調査を行った。そして、各自治体において機関ネットワークが円滑に構築されるように宮城県を中心として各自治体が連携して支援することができるように、東北ブロック会議を開催した。さらに、人的ネットワーク構築に必要な社会資源を調査した。また、高次脳機能障害者の実数調査の方法を検討した。

（倫理面への配慮）

本研究において得られた調査データは個人が特定できないようにされたデータのみを使用する。個人調査が必要な時には調査対象者および家族等から文書によるインフォームドコンセントを徹底し、被験者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施する。対象者の個人情報保護ならびにいかなる不利益も受けないように十分に配慮した。

## C．研究結果

### 1．東北ブロックの組織運営について

東北ブロックは青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県の６県で構成されており、統括自治体を宮城県に設定し森悦朗を東北ブロック統括者、事務局を高次脳機能障害支援モデル事業に参加した東北厚生年金病院として構成された。（図１参照）また、各自治体の支援拠点機関に関しては各自治体に最終選定は委ねるが、出来る限り診断および評価が可能な医療機関が担うことが望ましいとの考えが第１回東北ブロック会議で示唆された。

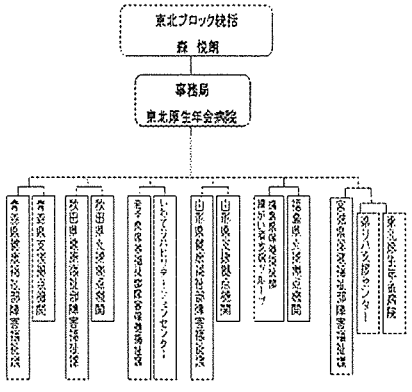



図1 東北ブロック組織図

### 2．東北ブロック活動状況

（1）東北ブロック会議の開催

第１回東北ブロック会議（2006年11月24日　宮城県庁）出席自治体；山形県、岩手県、福島県、宮城県

＜講演＞「障害者自立支援法と高次脳機能障害～高次脳機能障害に対する支援～」厚生労働省　障害保健福祉部　宮本哲也氏、「高次脳機能障害支援普